





自閉症や精神疾患 不採用を懸念

障害者差別解消法は、手帳の有無に限らず全ての障害者への「合理的な配慮」を企業に義務付けている。

採用試験で時間延長を認めることなどを求めているが、障害を伝えられなければ配慮を受ける機会を

職場の理解と支援重要

発達障害のある人たちの就活・就労に関する日財団の調査は、差別や偏見を警戒し、障害の開示をためらう傾向が浮き彫りになった。発達障害は外見からは判断しづらく、周囲の誤解を招くケースがあるが、特

性に応じた環境が整えられ、力を発揮できるとされる。当事者は「同僚の理解と一人一人に合った支援が必須だ」と訴える。

中部地方に住む40代の男は、性は幼い頃、同じ年代の子が使えない頃、泣き着かなくな

たり、予定外の出張事が起きるとパニックになったりしていた。高校生生時にいじめに遭い、精神疾患を患った。

大学卒業後に就職した会社は営業職に就いて成果も上げたが、勤務日に行動も拘束され、

施設、障害者雇用枠として採用され働いている。

男性は「当事者は自分の特性を周りに伝えることが大切。職場側は障害者とこのレベルを貼るのとはなく、その人のことを知り、配慮することが重要」と話した。

援重要

障害者 対コミュニケーションが苦手な「閉塞性対人恐怖症(ASD)」の行動的な行方がある「自然多動症(ADHD)」と読み書きや計算が困難な「障害者(LD)」などの総称。生まれつき脳の機能障害とされる。特性に応じた配慮が受けられないと、適応障害やうつ病などの2次障害を発症する恐れがある。

学生・支援専門職の2014年度の調査によるもの、全国の大学、短大、専修専門学校で発達障害のある学生は約1,900人在籍しており、10年度と比べ10倍超となった。

読めないと言われたり、書けないと言われたり、2015年度に初めて受けた授業で挫折した。仕事も挫折した。プレッシャーがかかる。

1つ、2つを完遂。障害者に対する理解を取ったという。同僚と手助けを得たという。授業を最後まで受け取ったという。伝えかた、段々。

代わりに、自分も工夫。聴覚過敏で配慮された。涙腺が弱く、集合中の特性があり呼びかけに得意としないという。同僚に助けを求めたという。

1つ、業務の優先順位をつけて、具体的な役割として1つ

県内総合 ニュースセレクト



下り線対面通行 橋桁や床版損傷

九州自動車道上りの川田橋、コンクリートの
橋台がぶつかった鋼鉄の橋桁が代り、床席が
ぐれがっている。23日、八代市

九州自動車道下りの綾川田を
変える仮交柱。



西日本高速道路は23日、2026年熊本地震で被災し、応急復旧した下り線で上卡対面行が被災。九州自動車道の田浦(八代市)を報復に開通した。大きく変形し橋脚に受壊を必要があり、「本道路は未だ」と断言した。

川田博隆(菅原)ヒナエ
上り線より損傷が激しい下り線に注意し、14日に上り線に閉鎖した。23日に再開した。対面行に閉鎖した方は橋の下部、鋼の橋脚コンクリートが被災した。北東の橋は、最悪

熊日の本

【表紙】A 4 判 56頁
【定価】1000円(税
み) 【発行】熊本日
新聞社 【制作・発売
熊日出版

本復旧の事は行線ら

熊本市新聞は、特別増刊集「2023年熊本大地震」が、熊本の歴史の宝を委ね出版です。7月28日発行の熊本の地誌や市況、沖町、八代市の状況に大きなダメージを与えました。全市各地は地の被た状態になり、避難所も復旧困難。全国からの支援の援手も収まりません。本書の発行は、一部は被災された方々への慰労金に充てさせていただきます。

2023年熊本大地震「三つまた」復興の記録

品名 28頁 月刊
お求めの書店、熊本市販売センター、または熊本市国史館
960-8301・3224（土・日・夜を除く午後9時～午後5時）へ。

の横断が約一センチに近づき、約30センチの高さで発生。コクリット製の床板がデスアクトン側がめくれ上がった。このあたりで応急撤収した。下りの線部は、仮設受注で下層を支援。たわみ試験で安全を確認。荷重をひびすの監視を続ける。限られた現場には通入できない。

（司馬正三）

くまもと 花散歩



すじがある。両脇の翼弁の紅色が鮮やか。雄しべと10個の雄しべを包む竜骨弁は内側にくるりと曲がる。塊芋。根にできるイモ状の塊は食用。(写真・文 矢加部和幸)

人ひと

という。趣味は読書で、愛読書は英作アガサ・クリスティーらの推理小説。「ぜ」という疑問を解いていく過程が好きな話です。

「芭蕉布の歴史を調べて、当時のの具や染色方法を古書から見つけ出す業に似ているんです」と笑顔を見せた77歳。

沖縄の伝統織物「芭蕉布」の保存や継承に取り組む

たいら みえこ
平良 美恵子さん

[illegible]

熊本城
の
ある景色

新たなる息吹
～熊本城復活への挑戦～
企画・演出 高橋明彦 協力 熊本県

私たちの身近にある「熊本城」
そんな「熊本城」のある景色をぜひあなたの手でとっておきの1枚に！
入賞した作品は「熊本城復興支援キャンペーン」の特集ページに掲載されます。
たくさんのご応募、お待ちしております。



序幕要項

応募資格	個人による応募でプロ・アマ、国籍を問いません。 WEBサイトに掲載されることへの同意を一旦いただいた方。
テーマ	(2016年4月の熊本地震に関与した)熊本城が含めたい風景
応募締切	2026年9月13日(土) 23:59
応募方法・形態	写真はJPEGデータのみ。カラー、モノクロいずれも可。 何枚でも応募でき、30日まで、1つの方法以外でも、ファイル容量の上限が変更 されても、ご留意ください。
	①WEBフォームから送信する場合 ・専用WEBフォーム(https://www.formzu.net/dist/5728453770/)に必要事項を入力の上、 フォーム内で専用ファイルアップロードし送信。応募画像の容量上限:1作品 6MB以内
	②専用メールアドレスに送付する場合 ・専用メールアドレス(contest@numanichi.co.jp)に必要事項をメール文面に記入の上、 ファイル添付で送付。申請書ファイル名:1作品 20MB以内
	※メールアドレスは、氏名(本名、ファミリー)、メールアドレス、電話番号(11桁)の順に半角英数字で 記載して下さい。年齢、住所、電話番号、タイトル、コメント、撮影時期(例:2025年4月)ごと
主催者審査によって選定した9件を入賞作品とし、 入賞作品は10月末に熊本日日新聞に掲載される「熊本城復興支援キャンペーン 特集ページ」内及び専用ホームページに掲載されます。	
表彰	最優秀賞(1点:5万円)、優秀賞(2点:3万円) 奨励賞(1点:1万円)入選(5点:5千円) ※最優秀賞、優秀賞は2026年10月末日までに現金で郵送にてお知らせいたします。 ※奨励賞は2026年10月末日以降に

お問い合わせ

熊本城復興支援キャンペーン「熊本城のある景色2026」フォトコンテスト 事務局
con-kai@kumanichi.co.jp TEL.096-361-3033(平日:10時～12時、13時～17時)
主催:熊本日日新聞社(事務局 業務局事業部 企画班内) 協力:熊本市